

(上田議長)

只今議題となっております、議案第 1 号については、委員会付託を省略し、直ちに討論採決に入りたいと思います。これにご異議ありませんか。(なし) ご異議なしと認めます。よって議案第 1 号については、委員会付託を省略し、直ちに討論採決に入ることに決しました。これより討論に入ります。討論はありませんか。

(西山一規議員)

私は、四国電力伊方原子力発電所の再稼働の是非を問う八幡浜住民投票条例の制定について、反対の立場で討論いたします。八幡浜市長および市議会議員は、有権者の投票によって選ばれました。これは、任期 4 年間の政治は、お前たちに任せたという意味で、これが間接民主主義や議会制民主主義と呼ばれるものと、私は認識しております。市長は有権者の思いを託された立場として、様々な案件を調査研究し、最善を尽くして八幡浜市を良くするよう全力で取り組み、そして議員は、市長の姿勢運用をそれぞれの視点から厳しく監視し、議会で議決する。これが市長と議員のあるべき姿と考えます。もしそれが出来ていないと有権者が判断するのであれば、次の選挙の時に、思いを託せる別の候補者に投票する、そして緊急性があるならば、任期を待たず、市長や議会をリコールする。これが間接民主主義の本来の姿だと私は考えます。

よってどのような案件であれ、住民投票という方法で、何らかの結果を得る行為について、私は反対致します。

(河野議員)

私はマクロ的見地の方から、反対の討論をさせて頂きたいと思うわけであります。

地方自治は、首長、議員、直接投票によって選ばれた。2 元代表制によって行政が運営されているわけであります。

私達および首長は、行政を推進する上において、常に住民の皆さん方に対して、政治的な責任を負っておる。そういう統治行動にある訳であります。

一方、市民においては、住民投票は、これは、直接民主主義制度。よって、住民投票によるこれは、自由な制度設計、これはオーケーですよ、ということになっている事でございます。で、ありますが、本市、八幡浜市の将来に渡って、また言下に於いて最も重要な案件、問題について、これを直接民主主義制度があるからといって、市民の皆さん方に判断を仰ぐ、ということは、私は 2 元代表制を遂行できてない、逃げだと思っております。住民の皆さん方に、判断を仰いだら、ダメです。これは責任回避であり、責任を住民の皆さん方に押付けることになる。私たち及び理事者、首長は、常に住民に向いて、幸福の追求、福祉の増進、安心安全安寧、豊かな生活、このために全力をあげているわけでありまして、2 元代表制という制度と、住民の皆さん方と、これは信頼の絆において繋がっているわけ

であります。従いまして、より一層、首長と議会と、議員と、市民の皆さん方が、より強固に信頼関係で結ばれる、ということに尽きると思うわけであります。

今、伊方原子力発電所の3号機によって、再稼働云々の問題、このことによって私は、なお一層、首長、行政と、我々議会と、住民の皆さん方が、強固にいっそうなりつつある。そう私は判断しているのであります。よって、なお一層信頼関係を築くためにも、この条例案については、反対意見でありまして、提案理由を説明された市長の内容と、私のこの反対の論理はまさしく、整合するわけであります。よって反対を致します。

(マクロな詭弁だ！というヤジが)

→ (遠藤もと子議員) 賛成討論へ

